

日本学術会議公開シンポジウム

「ユーロ危機とヨーロッパの政治経済」の開催について

1. 主 催

日本学術会議政治学委員会

日本学術会議政治学委員会比較政治分科会

日本学術振興会科学研究費（基盤研究（A）「国際政治に見る欧州と東アジアの地域統合の比較研究－規範、安全保障、国境、人の移動」（研究代表者、羽場久美子）

2. 後 援

駐日欧州代表部

外務省欧州局

国際アジア共同体学会

3. 日 時 平成25年2月17日（日）13：30～17：00

4. 場 所 日本学術会議講堂 （東京都港区六本木7-22-34 東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 出口5より徒歩2分）

5. 開催趣旨

冷戦終焉後、ユーロ・ペシミズムにあえいでいた欧州は、世紀転換期に深化と拡大を遂げるにより、体制転換と市場化を達成した中東欧の新加盟国を受け入れ、21世紀初頭にはアメリカをしのぐ経済成長を遂げ、またアジアにも接近して世界経済の地歩を築いた。

しかし2008年リーマンショックの余波は、ヨーロッパにも及び、2010-11年にはユーロ危機を迎えることになる。また移民の流入やグローバル化の中での賃金の停滞、物価の上昇、さらにはPIIGsと呼ばれる地域での財政の行き詰まりや破綻は、多くの創造的試みを行ってきたヨーロッパの発展に暗雲を広げることとなった。

ヨーロッパの政治経済は、世界において、どのような位置にあり、何を目指し、中国・インド、東南アジアの急激な発展の中、これらと連携しつつ、いかなる改革発展を行っていくのだろうか。

本シンポジウムは、アメリカの自由主義経済とは異なり国家と社会の規制によって現状欧州の問題点を打破しようとするフランスのレギュレーション学派のボワイエ教授、冷戦終焉後の市場化・自由化・民主化における二〇年来の台風の目である中・東欧の政治政策転換をユーロ危機の中で分析するベレンド教授、ヨーロッパの東と西、北と南の分裂の中で、ヨーロッパと、EUと共に生きるによりその役割と存在をヨーロッパに受け入れさせてきたドイツを分析するグルーナー教授が、それぞれ、三国地域の国家と地域の政治経済を分析し、打開策をさぐる。

6. 次 第

開会挨拶 猪口 邦子（日本学術会議第一部会員、参議院議員、日本大学客員教授）
アルブレヒト・ローサッチャー（欧州代表部公使参事官：政治経済部）
山田 淳（外務省欧州局審議官）
進藤 榮一（国際政経アジア共同体学会）
開催趣旨 羽場 久美子（日本学術会議第一部会員、青山学院大学大学院教授）

司会 猪口 孝（日本学術会議連携会員、新潟県立大学学長）
登壇者 ロベール・ボワイエ（アメリカ研究所、フランス）
「ユーロ危機の起源、進行、打開策——岐路に立つ欧州連合」
Robert Boyer (Institute of the America): Origins, Unfolding and Ways out
of the Euro Crisis, The European Union at the crossroads
イヴァン・T・ベレンド（カリフォルニア大学ロサンゼルス校、アメリカ）
「中・東欧の共産党体制後の体制移行とユーロ危機」
Ivan T, Berend (UCLA): Central and Eastern Europe's Post-Communist
Transformation and the Euro-Crisis
ヴォルフ・グルーナー（ロストック大学、ドイツ）
「ドイツの役割——ヨーロッパ、欧州連合、ユーロ危機に際して」
Wolf D. Gruner (Rostock University): The German Role in Europe, in the
European Union and the Euro Crisis
討論者 藤原 帰一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授）
真柄 秀子（日本学術会議連携会員、早稲田大学政治経済学術院教授）
羽場 久美子（日本学術会議第一部会員、青山学院大学大学院国際政治経済
学研究科教授）
閉会挨拶 恒川恵市（日本学術会議連携会員、政策研究大学院大学副学長）

参加費不要

参加は eu.and.asia@gmail.com まで、お名前と所属を書いてご連絡下さい。

ただし当日でも参加可能です。

日英同時通訳付き

問合わせ先 E-mail: eu.and.asia@gmail.com